

水稻



平成 28 年産早期水稻について



水 稻
新木 真一
指導販売部
0969-22-1105

いよいよ平成 28 年産の早期水稻も始まります。異常気象を受けにくい稲を作るには、まず健康な稲を作ること、健康な稲を作るには適正な育苗管理と適正な水管理を行うこと、そして土作りです。

また、昔から「苗半作」と言われています。早期水稻の場合、気温が低い厳しい条件下での田植えですので、苗

の良否が初期生育に大きく影響します。品質の良い米づくりのために、健苗の育成に努めましょう。

本田の準備については堆肥や土壌改良資材の投入と、作土を 15cm 以上確保するよう心掛けて下さい。

育苗施設の点検・準備

約 1 ヶ月間の育苗期間となります。春一番等、突風被害が毎年見受けられますのでハウス資材の点検と修繕は早いうちに行いましょう。

健苗の育成

種子は充実した、健全なものを使いましょう。そのためには必ず種子選（比重選）を行って下さい。（比重 水 10 リットルに塩 2 kg）

病害虫防除のために種子消毒と育苗箱の洗浄を行いましょう。種子消毒に使用した消毒液は河川や用水路に流さないようにしてください。

早期水稻の育苗日数は 25 日程度ですので、田植え日から逆算して播種日を決定しましょう。2 葉苗～2.5 葉苗の場合の播種量は乾籾で 150 g（催芽籾では 180g）が標準となります。

播種に最も適しているのは、ハト胸状態の時です。そのためには十分に浸種を行って下さい。

また、水の入れ替えと、1 日 1 回は攪拌して水温が均一になるようにしましょう。

果樹



2 月柑橘園管理



果 樹
木蜜 栄次
上島営農指導センター
080-1759-0088

1. 樹勢回復対策

収穫が終了した品種では H 28 年産の生産に備え、チッ素主体の葉面散布を短期間で行い樹勢回復に努めましょう。

葉 剤 名	希釈倍数	備 考
尿素・アミノジューシー N14	500 倍	収穫後 3 回以上集中散布を行う
神協スピリッツ	500～1,000 倍	

2. 土壌改良・施肥設計計画（土壌分析の実施）

昔に比べみかんの品質が悪い・収量が落ちた等の症状は出ていないでしょうか？

良い作物作りはまず健全な土づくりが第一歩です！JA では土壌分析を行い園地の状況に沿った施肥設計を行っています。土壌分析を積極的に活用し、高品質果実生産を行いましょう！！



土壌分析時の土の取り方

平坦な園地では●で示した 5 か所から土を採ります。また、段々畑の場合は、各段の真ん中付近の土を採ります。その際表層から 5cm 下の土を取り除き、その下の土を 15cm 程度垂直にとります。その後陰干しを行い良く乾燥させます。（石などはこの時に除いて下さい）乾燥が終わりましたら 500g 以上土を袋に入れ、JA にお持ち込み下さい。
※分析料として、1 サンプル当たり 3,000 円必要です。

○土づくり

平成 27 年産栽培暦より新しい土壌改良資材として「土の恵み」を追加しました。通常の肥料と同じくペレットタイプで施肥しやすく省力化が望めます。ぜひご利用下さい。

時 期	資材名	10a 当たり	備 考
2～3月 (収穫後)	堆肥	2,000kg	完熟物
	客土	4,000kg	3cm以内
	ヤシガラ	20袋以上	2キュビツ(120ℓ/11kg)
	土の恵み	12袋以上	ペレットタイプ

○施 肥

時 期	資材名	対象品種	10a 当たり	備 考
2月上旬	炭酸苦土石灰	全品種	10袋	
	新有機中晩柑一発	清見・河内晩柑・甘夏パール柑・テコボン	10袋	超省力化タイプ(年1回施肥)

3. 病害虫防除

この時期のハーベストオイルの散布は、ハダニ類の密度低下に非常に効果があります。厳寒期を避けた 2 月下旬～3 月上旬を目安に樹体全体に充分かかるよう散布を行いましょう。

対象害虫	農薬名	希釈倍数	備 考
ミカンハダニ	ハーベストオイル	80 倍	温州ですでに散布を行っている園では使用しない また、樹勢が弱っている園では使用しない

4. 剪定について

平成 27 年産の成り方はどうでしたか？柑橘ではその年に多く果実が成りすぎると翌年は着花量が減少し、結果的に収量が落ちる傾向にあります。成りが多かった園では、剪定は間引き主体のせん定で軽めに行うようにして下さい。

また園地内が密植で縮間伐が必要な園では、まず縮間伐を行いましょう。その後、剪定を行って下さい。

畜産



子牛の第1胃(ルーメン)の発達の重要性について



畜産
井上 正一
黒牛検定センター
080-1729-1626

子牛から成牛になるまでは、ルーメンから第4胃までの四つの消化器官の発達割合は、非常に大きな差があります。生まれたばかりの子牛のルーメンおよび第2胃は無菌状態で、消化管としての機能は持っていません。ルーメンの占める割合は生後1週間では25%ですが、成牛になると80%にも増加します。逆に、第4胃は生後1週間では60%を占めていますが、成牛になるとわずか7~8%を占めるだけになってしまいます。第2と第3胃の占める割合は、子牛から成牛になるまでほとんど変化しません。

したがって、子牛を育成して生産性の高い成牛にするためには、ルーメンを大きくさせる必要があります。

生後1週間で消化能力を持っている胃は第4胃だけです。初乳を含めミルク代用乳などを給与すると、第4胃に流出します。第4胃に流出したミルクは、蛋白質分解酵素により凝固し、ゆっくりと小腸内で消化されます。とくに初乳が第4胃で凝固することは非常に重要です。その理由は生後数日間は小腸の消化酵素の働きが十分でないため、消化しきれずに下痢を発症させてしまうからです。

生まれたての子牛のルーメンは消化機能を持っておりません。子牛のルーメンの発達はルーメン壁の筋肉を厚くすること同時に繊毛を成長させ、消化機能を持つ胃にすることです。そのためには、穀類の給与が非常に重要になります。

ルーメンは、はじめは無菌状態ですが、生まれた直後から環境下にいる微生物が口から侵入していきます。摂取された穀類は、ルーメン内ですぐに微生物により発酵し、発酵により生産された酪酸、プロピオン酸が絨毛の成長に必要なとなります。

以上のことから、生まれてすぐの子牛には十分初乳を与え、生後1週間内に濃厚飼料(モーレット等)の給与を開始し、ルーメンの発育を促し、健全な子牛の育成に努めましょう。

野菜



シシトウ・甘長とうがらし栽培



野菜
山下 伸一
下島営農指導センター
080-1729-1630

露地栽培

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
シシトウ	△		■	■	■	■	■	■
甘長とうがらし	△		■	■	■	■	■	■

定植: △ 収穫: ■

定植

1. 植穴は、苗鉢よりもやや大きめにし、50~70cm間隔であける。
 2. 定植苗は、第一果房が開花する3~4日前の若苗を定植する。
 3. 定植時には、アブラムシ・スリップス対策としてスタークル粒剤を1株当たり1~2g植穴処理する。
 4. 定植を行う際は、鉢土の上2cm位が見える程度浅植えする。
- ※植え付けが深いと白絹病や疫病の原因となる。
5. 定植後、初期生育促進の為に、株元に液肥灌水する。
 6. 定植後、直ちに支柱に誘引する。

定植後の管理

1. 定植後7~10日頃までは、鉢土が乾燥しないよう

に株元に灌水し、根の活着を促す。

2. 活着後は、徐々に灌水量を減らし、根を深く張らせる。
3. 第一分枝以下の果実・脇芽は、早めに取り除く。
4. 定植後20日前後までに、本支柱及びネット張り(2m間隔)を行う。

整枝・誘引

1. 整枝は、出来るだけ中心に光線が入るように摘芯する。
2. ネット張りは、樹の生育に合わせて行う。高くなった場合は、2段目を張る。

施肥量

シシトウ	10 a 当り / kg			甘長とうがらし	10 a 当り / kg		
必要成分量	N	P	K	必要成分量	N	P	K
元肥	30	25	30	元肥	15	20	15
追肥	10	10	10	追肥	15	15	15
合計	40	35	40	合計	30	35	30

詳しいことは各地域の担当者、又は栽培講習会等でお聞き下さい。